

はしがき

本書は、サステナビリティ（持続可能性）にまつわる法律分野に関する事項をまとめた「大全」である。

かつてサステナビリティは美辞麗句的に解釈され、企業がサステナビリティ対応を行わなくてもそれによってビジネスが毀損されたり、収益機会を失ったりするようなものではないと限定的に捉えられていた感もあった。また、企業活動の本丸ではなく、ある種その外縁に属する社会貢献的なものとして位置づけられてきたことも多かったのではないだろうか。

現在においても、サステナビリティについて、事業遂行上優先的に取り扱ったり、その対応に多くのリソースを割くこと等に対しては、地域を問わず、批判的な意見も存在することは事実である。

しかし、本書で詳述しているように、今やサステナビリティに関する多くの事項が、ソフトローのみならずハードローとして定着しており、変化の激しい時代において企業活動を適切に進めていく上で、その理解と対応が不可欠な分野となっている。

サステナビリティは、世界の至る所で問題となっているトピックである以上、これらの国々およびこれらの国々の企業と取引等を行うにあたり、また、これらの国々において企業活動を行うに際して考えざるを得ない事項である。

また、国内においても、少子高齢化といった問題を抱える日本においてはそれらに関連するサステナビリティ課題に否応なく直面し、日本政府、投資家、金融機関、取引先、その他のステークホルダーとの関係でも種々の対応が求められている。

そこで、本書では、以上のような背景を踏まえながら、各分野について必要と思われる事項を可能な範囲で説明している。具体的には、総論、コーポレート、ファイナンス、労働をはじめとするソーシャルな分野、環境、独禁・通商に関する事項を網羅的に記載している。

本書で取り上げている分野の多くは、唯一の解が存在するものではなく、また、世界中で活発な議論の対象となっており、流動性も高く、その対応にスピード感が要求される。

はしがき

サステナビリティ分野が有するこのような特性は、開所以来フロンティア精神を大事にしてきた当事務所のまさに強みとするところであり、当事務所の多くの弁護士が本分野の最前線で奮闘しているというのは偶然ではないであろう。

また、世界的な議論の対象となっている本分野にキャッチアップするためには、規範の制定にまつわる最先端の議論についてであれ、現場において発生している事象であれ、タイムリーに把握し、対処することが必須となるが、アジアのみならず、欧米にも拠点を有している当事務所の特性が大いに発揮できるであろう。

本分野の多くで企業が直面する課題は、グラデーションのある世界にて時々刻々と変化する荒海の中を自ら泳ぐことが求められる。そのような中で、本書が、手にとられた方々にとって何らかの道しるべ、あるいは、取組みの契機となるなど、日々の業務に少しでもお役に立てば幸いである。

最後に、本書刊行の機会を与您とくさき、本書作成の全般にわたって終始多大なご支援・ご協力をいただいた、商事法務の浅沼亨氏および吉野祥子氏に厚く御礼を申し上げる。

2025年1月

編者一同